

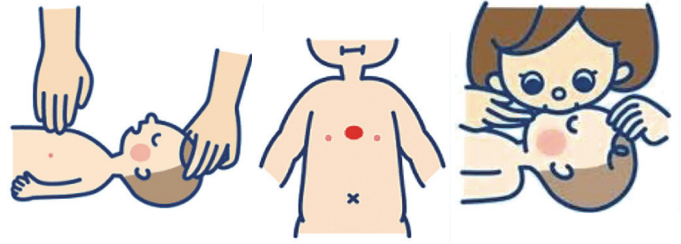


胸骨圧迫は1分間に100～120回のテンポで、胸の厚さの約3分の1までしっかり圧迫し、胸を押した後は十分に心臓を拡張させるために、毎回胸を元の高さまで戻します。リズムよく、絶え間なく圧迫してください。

1歳以上の小児の場合は、胸の真ん中に両方、もしくは片方の手のひらの付け根を重ねて両肘をまっすぐ伸ばして圧迫します。

1歳未満の乳児の場合は、1人なら胸の両乳頭を結んだ線の少し足側を指2本で圧迫、2人なら足側から胸郭を包み込んで両手の親指を使って圧迫します。人工呼吸は気道をしっかり確保するために頭を後屈させて顎先を上げたまま、指で子どもの鼻をつまみ、大きく口を開けて、息を約1秒かけて吹き込みます。このとき目で子どもの胸がしっかり上がっているのを確認してください。

確認できたらいったん口を離し、もう一度同じように吹き込んでください。大人も子どもも胸骨圧迫をいかに上手にできるかが鍵になりますが、子どもの場合は心停止より先に呼吸停止が先行することが多いため、人工呼吸もかなり重要視されています。



AEDにはいくつか種類がありますが、基本的な使用方法は同じです。とにかく手に入ったらまずは電源スイッチを入れてください。あとは音声指示に従うだけです。

CPRの最中は、いかに胸骨圧迫を中断しないかがポイントですので、パッドを胸に装着するときも胸骨圧迫を止めないでください。

未就学児の場合は、未就学児用パッドや未就学児用モードを使用してください。

AEDによる心電図解析が始まったらはじめて子どもに触れないようにします。

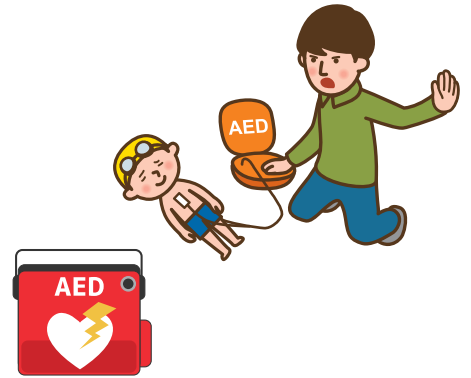
「ショックの適応がある」とアナウンスがあったら、自分を含め誰も子どもに触れていないのを確認してショックボタンを押し（自動的にショック行われる機種もあります）、

ショック後は脈や呼吸の確認はせずにすぐに胸骨圧迫からCPRを再開してください。「ショックの適応がない」とアナウンスがあっても、同じようにただちに胸骨圧迫からCPRを再開してください。

AEDは2分ごとに自動的に心電図解析を行うので、パッドは装着したままCPRを継続して、その都度、音声指示に従ってください。

よくAEDを付けるのは怖い、間違えてショックをしてしまったらどうしよう、と言われる方がいますが、AEDは解析した結果、ショックの適応がないとショックボタンが光らず、ボタンを押しても電流は流れませんので、安心して付けてください。

またAEDをつけると胸骨圧迫や人工呼吸が疎かになるケースが多いので、心肺蘇生の基本は胸骨圧迫と人工呼吸であることをしっかり認識してください。



!!場面別!!

家庭でできる子どもの救急初期対応

以下によくある子どもの救急の場면을挙げます。

それぞれの観察ポイントと家庭でできる初期対応、救急車を呼ぶタイミングをお示します。



case 1

急に熱が出てけいれんした!



観察ポイント

- ☑ 意識はあるか(意識があれば悪寒の可能性も)
- ☑ 眼球はどちらを向いて固定しているか
- ☑ 体の強直に左右差があるか
- ☑ 持続時間はどのくらいか
- ☑ 既往(てんかんや熱性けいれんなど)はあるか
- ☑ 頭を打ったりしていないか

初期対応

- ◎ 子どもが傷つかないように周囲のものを避ける
- ◎ メガネをかけていれば怪我防止のためはずす
- ◎ 口の中にタオルなどのものを噛ませない
- ◎ 嘔吐時の誤嚥防止で顔を横へ向ける
- ◎ 首周りの衣服を楽にして呼吸しやすくする

救急車を呼ぶタイミング

けいれんが5分以上続く場合